



好学愛知 自律敬愛 質実剛健

鶴鳥イ言

鹿児島県立鶴丸高等学校

〒890-8502 鹿児島市薬師二丁目1番1号

TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433

http://www.edupref.kagoshima.jp/sh/Tsurumaru/index.html

果敢に挑戦せよ

校長 豊島 真臣

鶴丸高校に赴任しての印象は、生徒諸君の礼儀正しきである。登下校時に正門で一礼する姿。着任早々で誰かもわからぬ私に対する、明るい笑顔も添えたあいさつ。そのことだけで鶴丸の備えた品位、校風を感じ取ることができた。このような所作は、学校での指導もあると思うが、家庭での基本的なしつけができていて、日々の友人たちとの交流の中で実践されていることである。思う。このようないは人間としての成長に必要なことである。家庭でも学校でも教えるべき事はきちんと教えなければならぬと改めて痛感した。



先日の始業式、入学式では「自ら求めて学ぶ態度を身につけてほしい」「試験に立ち向かう勇氣を持った人間になつてほしい」と生徒諸君に話した。現在、物的には大変豊かになつたが、物に恵まれた環境の中で生まれ育つた今の高校生は、試験に立ち向かう力、辛抱する力が不足しているのではないかと、自ら求め学ぶ態度や高い目標に挑戦する意欲に欠けているのではないかと悩んでいる。易きに就いてはならない。変化の激しい、先の見えない時代を生きていくためには、敢えて困難に挑戦し、自ら道を切り開こうとする氣魄を持つことが必要なのである。そして、自ら求めた徹底的な学ぶ態度から真の力は生まれてくるはずである。

卒業生を送り出し幾分寂しげな学校に、新しい出会いを心待ちにするかのように桜の花が咲き誇っている。数日後、花びらが舞い若葉が芽吹いてきた春のよき日に、瞳を輝かせた三百二十名の新入生は鶴丸の門をくぐった。入学式で担任の呼名に答える一人ひとりの声からは、これから始まる高校生活を充実したものにしようという強い思いが感じられた。高校入試という難関を突破した君たちは、夢の実現に向けた新たなステージに立ったことになる。これからの日々の取り組みが様々な可能性の扉を開いてゆくのだ。進むべき三年間の道のりは決して平坦なものばかりではないだろう。自己成長のためには、試験はつきものである。それを超えていくことが確かな成長に繋がっていく。そこでは困難を自らの力で克服することのできる心身の強さが必要になる。プロサッカー選手の本田圭佑さんはテレビのインタビューで「信じられなくなったときに希望の光は見えなくなる」と答えていた。そして「うまくいかなかったときに、ちよつと疑うと思うんですよ。そのときに、いかに自分を信じているかができるか。だから『信じる』というの、本当に『希望』そのものですよね」と言葉を続けていた。世界の第一線を活躍される今なお、自らを信じ日々努力を重ねる夢を追い続けている。年を重ねると、夢という言葉が口にするには少なくなる。「世界一のサッカー選手になる」という夢を抱き、ひたすらボールを追い続けた少年は、幾度となく困難な壁にぶつかり、厳しい現実を直視したに違いない。それでも自らの可能性を信じ努力を重ねることで、才能を開花させ、世界のトッププレイヤーとなつた本田さんの姿は、私たちに強いメッセージを発信してくれる。

可能性の扉を開け

一学年主任 石谷 洋一

私は「誠」という言葉を常に心においている。生徒諸君には、校歌に「悠久の天を敬ひ まこともて人を愛せむ」とあるように、まごころをもつて人に接し、何事にも真摯に対峙していくことで、果敢に自分の人生を切り拓いてくれることを願っている。

百二十年の歴史に思いをよせ 未来をまなびます

創立記念式・講演会

4月21日、創立記念式・講演会が実施された。式のなかでは、一中・一高女の校歌斉唱も披露され、朗々と響く旋律に、生徒たちは百二十年の歴史と伝統に思いをよせていた。記念式に続き、濱田摩耶氏（本校52回卒、外務省国際協力局政策課長補佐）が、「私がアフリカから学んだこと」と題して、80分の講演を行った。セネガル大使館駐在時の日々や、昨年度行われたアフリカ開発会議での体験をとおして経験した、国と国とを結ぶ架け橋、日本の代表となる「外交官」の責務ややりがい、または国際情勢の中の日本の役割や世界に愛される日本の存在感について、豊富な写真を紹介しながら語った。「国際社会は答え、マニユアルの見えない社会。しかし、高校時代の経験が今につながる」と感じます。友人や先生方とのつながりや、毎日乗り越えることが必ず将来につながります」と後輩たちにエールを送った。先輩が世界を舞台に活躍する姿に、生徒たちは熱いまなざしを向け、自らが描く未来に、たゆみなくすすんでいく決意を固めていた。



○ 生徒の感想  
先入観なしに全ての人に對して平等に接することを心がけて、全ての人と向き合える人間になりたい。（三年男子）  
濱田さんが携わってくださったプロジェクトの多さに驚きましたが、「自分一人で行ったわけではない」という、濱田さんの謙虚な姿に感動した。（三年女子）  
情報を鶴呑みにせず、自分で足を運ぶ、見て聞いて感じたことよって、世界のためにできることを考えていく、という姿勢を、私のこれからの生き方に、参考にしたいと思った。（二年女子）

5月の行事予定

Table with 5 columns: Date, Day, Event Name, Location, and Remarks. Includes events like '新体力テスト', '憲法記念日', '学年朝会', 'PTA総会', '全校朝会', etc.

甲鶴戦 紅紫繚乱

生徒会長 甲斐 洸陽

甲南・鶴丸両校の逞しい校歌斉唱が空に響く。応援団の演奏に、気分が高揚する。選手は、舞に、会場が沸く。第44回甲鶴戦は、心配された天気は何とか持ちこたえたものの、曇天の下での幕開けとなりました。スタンドの「44回目の」代表選手、応援団としての凛然たる姿を肌で感じられた開会式は、この大会の成功を予感させるものでした。陸上競技から始まった、年に一度の大決戦。点が入るたび、映えるプレーが見えるたび、どの会場でも湧き上がる大歓声。響くメガホン、吹奏楽の演奏、応援団のエネルギー。逐次知らされる試合結果に、本部役員の興奮も冷めることを知りませんでした。全校応援の野球は、大きな盛り上がりを見せました。まさに紅紫繚乱。最後の競技を、鶴丸高校の野球部が勝利で締めくくってくれました。総合結果は、7対10。悔しくも、優勝旗は甲南高校の手に渡りました。



閉会式終了後、ふと空を見上げると、朝の曇天の名残は全く無く、煌々たる太陽がそこにはありました。第44回の甲鶴戦の大健闘を称え、また代表選手の労を労っているようにも感じられました。悔しさが爽快感に、その姿を変えた瞬間でした。皆さんのご協力のもと、今年もまた、大成功のうちに無事甲鶴戦を終えられましたことを、心から感謝いたします。鶴丸高校の誰もが胸に抱いているであろう、「来年こそは」というこの思い。三年生は、その思いを頼れる後輩に託します。平成26年度定期人事異動

- 校長 豊島真臣
教頭 竹井俊久
国語 坪内真吾
国語 福久高文
数学 城ヶ崎祥子
保健 中曲瀬修
家庭 湯田美玲
情報 川元祐奈
事務次長 有村浩一
事務主査 恒吉万寿美
事務主事 梶木賢一郎
事務主事 田畑美智代